

鉄資材でイネごま葉枯病に負けない 水稻を育てましょう

秋落ち症状に伴うイネごま葉枯病



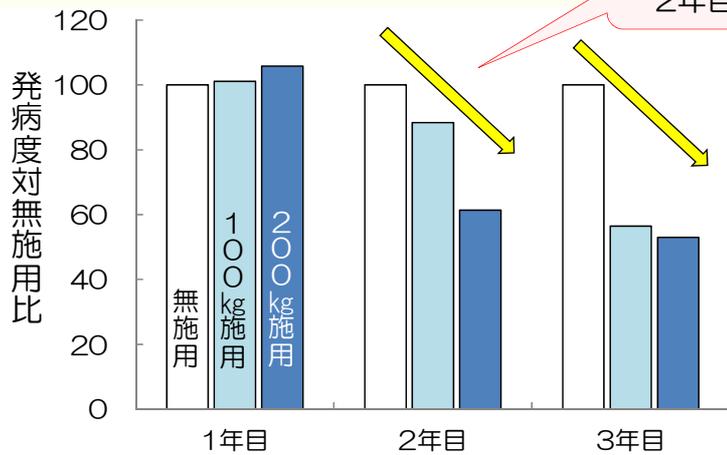
土壤中の鉄が不足しているイネごま葉枯病常発地では
鉄資材を200kg/10a施用しましょう！！



鉄資材を施用することで…

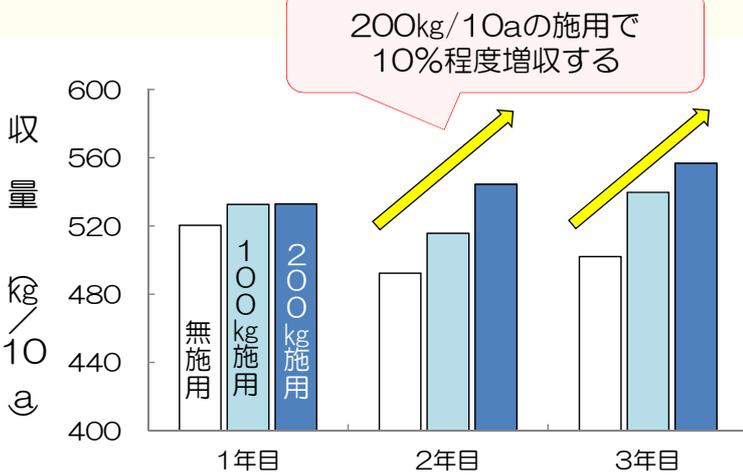
- ➡ イネごま葉枯病が発病しにくい稲になります。
- ➡ 窒素吸収量が増え、増収につながります。

【具体的データ】



鉄資材施用効果は
2年目から顕著

図1 鉄資材施用条件下でのイネごま葉枯病の発病



200kg/10aの施用で
10%程度増収する

図2 鉄資材施用量と収量の関係

鉄資材を施用すると…

根圏環境が改善し、
根への障害が緩和されます。



健全な根での養分吸収により、
栄養状態が良好となります。



イネごま葉枯病が発病
しにくい稲になります。



窒素吸収量の増加により、
収量が増加します。

【留意点】

- 鳥取市で品種「きぬむすめ」を供試し、鉄資材を3年間連用した結果である。
- 試験実施ほ場の土壌中遊離酸化鉄濃度は0.4%である。
- 鉄資材の施用により窒素吸収量が増加するため、
玄米タンパク質濃度が上昇する傾向にある（図3）。

遊離酸化鉄濃度の
土壌診断指針値は
1.5%

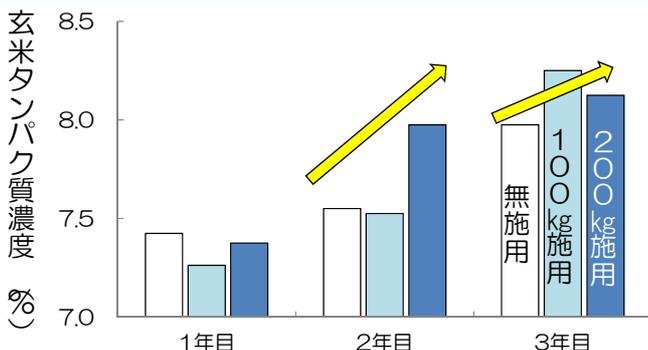


図3 鉄資材施用量と玄米タンパク質濃度の関係

- 畦畔雑草（アシカキ）は、
本病の伝染源になるので、
除草の徹底が必要。

※本書から転載複製する場合には
鳥取県農業試験場の許可を受けて下さい

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 環境研究室
電話 0857-53-0721